

2019 高島杯ジュニアクラブチームカップ

うまくない絵でも自分で描きたいものですね
-高浜FC HP- 故 平田生雄氏の「S級の視線」より引用

	広瀬	口田東	古田	高砂門徒	KUSAMA	十日市	深川	観音	シラカ	駅家	口田	高浜FC	徳島東	KANSC	戸坂	落合	KSC	緑井	舟入	矢野	赤川	コタテ	大芝
10:15			C	A			C	A								B				B	●	●	●	●
10:45		B				B								⊗							⊗	⊗	⊗	⊗
11:15	A				A		C				C	B			B						⊗	⊗	⊗	⊗
11:45						B				B				C		A				C	A			
12:15					C	A			C	A									⊗					
12:45				B							B				A		A	C		C				
13:15		C	A							C	A									⊗				
13:45	B								B				C	A			C	A						
14:15																								
14:45																								
15:15																								
15:45																								
16:45																								

朝4時、落雷と屋根を打つ雨音に起こされたかと思えば、スマホの着信・・・「警報が入っているので大会の継続について連絡をする必要がある」と高陽の代表植村氏から・・・しばらく放心状態からの天気状況のチェック・・・オレンジ、赤の雲はかなり危険とはいえ長く続かない可能性もある。それでも万が一があってはならない。と今後の見解を伝えました。

朝7時、宣言した7時には解除にならず、中止が確認されました。仕方がないけど、させてあげたい、と会場に移動したチーム。そんなこともあると解散をしたチームもありました。どれもこれもこどもたちの将来を大切に作る決定でした。

朝8時、警報は解除。使用料は払っている会場なのでトレマッチを計画しました。少なくとも予定通りの対戦ができるように指導者みんなでミーティングしました。さらに空いたスペースを使ってお互いの交流と試し合いを計画することもできました。20チームぐらいでワイワイ調節するのはなんだか楽しかったですね。結果のほうはいかがだったでしょう？

例年は、時間を押しながら審判の調整などにも神経を奪われますが、トレマッチと言うだけで選手も指導者も肩の力が抜け、良いトレーニングが展開されこどもたちの目が光るゲームができたと感じています。

子どもエリアの願いをしました。写真のように、子ども達で整理整頓をしたり、話し合いをしたり。他のチームと交流したり。子ども達ならではの過ごし方をしていきました。残念なことにサポーターや指導者が入りこんでこどもたちの動きに制限を加えてしまうこともあったようです。少しだけこどもたちの失敗を自分たちで食い止めるように成長を促す場を提供してみたいとは思いませんか。きっと子ども達の成長の速さに驚かされる日が来ると思います。



最後になりますが、大会を盛り上げてくれた選手の皆さん、サポーターの皆さん、大会の趣旨に賛同して大会を支援していた後援の皆さん、参加を提案してくださった指導者の皆さん、誠にありがとうございました。今年も、雨に遮られた優勝の行方、少し考えることが必要なんだろうね。子ども達の未来……。準備の段階から、綿密な相談をし、惜しみない時間を提供してくださった。高陽のサポーターの皆さん、指導する教室を超えて、クラブのために動いてくださった指導者の皆さん改めてありがとうございました。来年につなげていきたい思いでいっぱいです。

会場に残されたグッズのお知らせをします。赤いバッグ2つ傘3本。特定できる物があれば知らせてください。村上の方で預らせていただきます。マーカーは、特定できているので届ける手配をします。



今年一番の活躍を期待したのがこれ。数日前整髪に行ったときに店主からいただいたヒントから、考案しました。プロデュースはM上、作者は高陽T下コーチでした。



Tマッチの様子。